

周藤彌兵衛翁

(一六五二～一七五二)

八雲町の山麓から流れ出る意宇川は、江戸時代初期には急屈折と蛇行を繰り返す川でした。そのため、大雨の時はたびたび堤防が決壊し、地域全体が泥海化する水害が多発しました。その惨状を憂え、慶安三年（一六五〇）から三年間、新たに直進する川筋に変える「川^{かわ}違え」と「切り通し」の工事に取り組んだのが、日吉村（現在の松江市八雲町日吉）の豪農周藤彌兵衛家初代家正^{いへまさ}でした。その祖父の遺志を継いだ三代彌兵衛良利^{りょうせう}は、宝永三年（一七〇六）五十六歳の時から、延享四年（一七四七）九十七歳に至る実に四十二年もの年月をかけ、工事をやりとげました。巨額の私財を投じ、百歳近くまで孤軍奮闘の努力をした良利の人間像は、今に至るまで語り継がれています。

さらに、明和三年（一七六六）に六代兵蔵^{へいぞう}の追加工事が行われ、その後、水害は激減し、旧河道の地内には広い田畑も生まれ、地域の繁栄と人々の幸せにつながりました。良利は宝暦二年（一七五二）百二歳の天寿を全うしました。



この像は、中国山東省棗莊市で制作されました。
棗莊市は、一九三八年、島根、鳥取、広島、岡山
出身者で編成された松江六十三連隊を含む日本軍と、
米・英の援助を受けた中国軍が戦った「台兒莊大戦」
で、双方に甚大な被害が出た地です。

日中国交正常化三十周年の二〇〇二年、棗莊市で、
孔子、孟子、周藤翁、清原翁の銅像を制作、孔子・
孟子の像は鳥取県に寄贈して、日本最大の中国庭園
「燕趙園」に建立されました。

「竹島の日」制定以降、北東アジアは戦後最も難し
い状況になっています。

この度、八雲から北東アジア、そして世界の恒久
平和を生み出すことを念じ、翁の大銅像を、戦地に
赴く若者を見送った御陵の前に建立いたしました。

「歴史に盲目的な人間は、現在に対しても盲目である」 〈ワイツゼッカー〉

「理念なき経済は犯罪、経済なき理念は戯言。一家を廃して万家を興す」

〈二宮尊徳翁〉

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ
優れた創造力 逞しき意志 炎ゆる情熱 安易を振り捨てたる冒険心
こう言う様相を青春と言うのだ」
〈サミエル・ウルマン〉

寄贈 小松昭夫

意匠 高田勲

制作 劉成啓

建立 周藤彌兵衛顕彰会

